

作成日：令和7年2月20日

数理科学委員会数理統計学分科会

(第26期・第2回)

議事要旨

日時：令和7年2月20日（木）10:00～11:30

会場：オンライン会議（Zoom）

出席者：青嶋誠（委員長）、荒木由布子、上田修功、大森裕浩、川崎能典、西郷浩、
佐藤忠彦（幹事）、佐藤美佳、椿美智子、樋口知之、松井知子（副委員長）、
南美穂子（幹事）、山下智志、渡辺美智子

欠席者：朝日弓未、岩田洋佳、小林正人、竹村彰通、椿広計、福重元嗣、山田秀

議 題

- (1) シンポジウム開催について
- (2) 情報学教育分科会から（渡辺委員）
- (3) その他として、ICM 招致について

- (1) 南幹事から説明があり、シンポジウムのテーマについて議論された。開催形態はハイブリッドがよいだろうとの意見があった。開催日時については、学術会議の会場の空き状況を調べた上で、Slack で意見を求めることとなった。講演者候補として3名（機械学習、統計教育、社会科学）が、パネリスト候補として2名（医療統計、統計科学）が挙げられた。シンポジウム実行委員会が、南幹事と佐藤幹事を中心に、青嶋委員長、松井副委員長、荒木委員、西郷委員、渡辺委員の7名で立ち上がり、引き続き Slack で議論することとなった。
- (2) 渡辺委員から情報学教育分科会による情報教育課程の設計指針について説明があり、Slack で意見を求めることとなった。
- (3) 青嶋委員長から、国際数学者会議（ICM）の2030年東京招致計画について説明があった。統計学に関するセッションも計画されており、今後、日本数学会から統計関連学会連合に共催の依頼が届く予定であることが説明された。